

3

障がいのある子どもと家族のケア研修会

事務局責任者：原瑞恵（岩手県立大学看護学部 准教授）
 事務局メンバー：及川佳子（こずかたこども園）、川村貴子（岩手県立療育センター）
 大和田毅（独立行政法人国立病院機構釜石病院）、高橋佑里香（岩手県立大学看護学部 助手）

該当する
原則

原則 9：持続可能性を推進する

1. 研修会の概要

岩手県立大学看護学部では、主に岩手県内の障がいのある子どもを養育している家族の方々と、子どもと家族のケアに携わっている医療職や福祉職の方々の意見を取り入れ、年2回研修会を行っている。この研修会は、家族の方々と支援者が意見交換しながら、子どもや家族の状況、お互いのケア状況を把握し、障がいのある子どもと家族にとってよりよいケアとなるよう考える機会を提供することを目的としている。



研修会の事務局メンバー

2. 研修会の実際

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、オンライン配信による遠隔での研修会を実施し、医療的ケア児に関わる施設の現状や、子どもや家族の状況について意見交換し、お互いの思いを共有した。

(1) 研修会テーマ：子どもと家族の生活を支えるために

(2) 話題提供：

第1回（7月）

- ・ 訪問看護師（訪問看護ステーション）
- ・ 理学療法士（児童デイサービス）
- ・ 相談支援専門員 兼 看護師（医療型障害児入所施設）

第2回（2月）

- ・ 事務局
- ・ 教授（岩手医科大学医学部小児科学講座）
- ・ 小児科医師（岩手県立療育センター）

(3) 研修会参加者：

- ・ 障がいのある子どもを養育しているご家族
- ・ (医療型障がい児入所施設) 看護師、医師、保育士、生活支援員、言語聴覚士等
- ・ (訪問看護ステーション) 看護師
- ・ (日中一時支援事業・放課後等デイサービス) 管理者、看護師、保育士、相談員
- ・ (岩手医科大学附属病院) NICU病棟・外来 看護師
- ・ (保育園) 保育士、看護師

3. 参加者の感想（アンケートより抜粋）

- ・ 病院や施設で行っている活動だけでなく、実際に障がいのある子どもを育てている親御さんの声を聴くことができ、岩手の現状と課題について学び、考えることができた。
- ・ 地域の支援者の思いや家族の思い、願いを知ることができ、だからこそ、自分の施設では何ができるのか、自分には何かできることはあるのかを考える場になった。
- ・ 障がいのある子どもと家族のサービスを知ることができただけでなく、医療的ケア児の家族からみた社会の現状を知ることができた。
- ・ 障がいのあるお子さんとその家族が安心、安全に暮らすことができる体制づくりの必要性を実感した。
- ・ 一緒に訴えていける横のつながりがとても重要であり、「切実な声」を確実に届けることができる仕組みが必要だと思った。



研修会のチラシ